

2010年12月11日
オープンソースビジネス市場研究会(仮)
赤井 誠

OSC50回開催からみるオープン ソース市場の傾向

アジェンダ

- 自己紹介
- このセッションの目的
- オープンソースカンファレンスの始まり
- 2004～2010年までの推移
- まとめ

自己紹介(1)

- 日本ヒューレット・パッカー株式会社に入社後、HP-UXやHPソフトウェアの開発
- その後、マーケティング、サービス事業戦略部門
- 2003年からLinuxビジネスリーダー
- ハイパフォーマンス・コンピューティング
- VMWare, Microsoft Windows, HP製クラウド管理ソフトウェアのビジネス開発担当
- 2010年より、株式会社サイバーリンクスにて新規事業開発に従事。

自己紹介(2)

- 著作 『マックで飛び込むインターネット』(翔泳社) 『MySQLクックブック』 『JBoss (開発者ノートシリーズ)』(オライリージャパン) など
- 現在、Linux Foundation Japan の運営する jp.linux.com にて、コラム「Linux ビジネスの作り方」の連載中

このセッションの目的

- 2004年9月に開始されたオープンソースカンファレンスは、2010年9月 東京開催で、50回を迎えた。
- 年間6000人、参加団体400団体を超えるまでに成長した国内最大のオープンソースイベントに成長
- この間、人気セミナーの内容や支援する団体は、時代を反映したものとなった。
- 50回を総括することで、オープンソースビジネス市場を動向を把握して、今後の方向性を分析するもの。

オープンソースカンファレンスの始まり

- 初開催: 2004年9月
- ボランタリーなオープンソースコミュニティおよび個人、企業、行政機関、団体による実行委員会により開催
- 目的
 - オープンソースコミュニティの『活動成果』の発表の場を提供
 - 開発者とユーザーの『出会いの場』の提供
 - ビジネスチャンスの創出
 - 企業・コミュニティ・その他グループの緩やかな連動
 - OSSの今後をよりよくしていくための試みを考える

第1回OSC Tokyo

- 国内のオープンソース・コミュニティ 20組以上が結集 (ITPro)
 - <http://itpro.nikkeibp.co.jp/free/ITPro/NEWS/20040904/149464/>
- 検索しましたが、OSC 2004の公式サイトが見つからない
- Platinum Sponsor
 - アップルコンピュータ株式会社
 - NTTコムウェア株式会社
 - サン・マイクロシステムズ株式会社
- Gold Sponcer
 - 株式会社アルファシステムズ
 - 株式会社ワイズノット

第1回パネル・ディスカッション

- テーマ：オープンソースとビジネス
- テンアートニ 代表取締役 喜多伸夫氏
 - 「テンアートニは8月に東証マザーズに上場することができた。Linuxは利益の出るビジネスができるようになった」「Linux以外のオープンソース・ソフトウェアはまだ難しい面もある。特にデスクトップは難しい」
 - 注:サイオステクノロジー株式会社に社名変更
- Linuxがビジネスになってきたことポイント
 - 2002年3月26日 Red Hat社がRed Hat Enterprise Linuxをリリース
- それ以外のOSSのビジネスは難しい段階

□ <http://itpro.nikkeibp.co.jp/free/ITPro/NEWS/20040904/149464/>

2004年当時のビジネスの動向

- 2003年ころから、急速に、商用UNIX から、Linux への移行が進み始める。
- しかし、サービスレベルが商用UNIXに及ばないために、各社とも苦戦していた
- OSC後援企業は、まだオープンソース色が強い支援体制になっていない

2004年当時のエンジニアの状況

- ミラクル・リナックス 取締役技術本部長の吉岡弘隆氏が、ボランティアだけでは限界があると指摘した。「開発スピードを上げるには、フルタイムの開発者を雇用する必要がある。また**工数の9割はテストであり、品質面からもフルタイムの開発者が力仕事をやることが必要**」
- 日立製作所の日立製作所 システム開発研究所 研究員 杉田由美子氏も、Linux Kernel Sumittに参加した経験から「**カーネル開発者の多くが米IBMや米Hewlett-Packardに雇用されている**」と、オープンソース開発者の経済基盤の必要性を指摘した。
<http://itpro.nikkeibp.co.jp/free/ITPro/NEWS/20040904/149464/>

2005年:2年目にして、北海道から沖縄まで開催!!

- 【年間実績】 3都市・4会場・約2,400名
- 東京 2回、札幌 1回、沖縄 1回
- スポンサーの増加
- 東京 春: NEC, HP, アルファシステムズ、NTTコムウェア、テンアートニ、東京フォレックス・ファイナンシャル株式会社、株式会社ワイズノット、yellowTAB GmbH など

2005年 3大DBが話題、Javaセッションも

- オープンソースカンファレンス2005 - MySQL/PostgreSQL/Firebird三つ巴、今あえて語るそれぞれの不満
 - <http://journal.mycom.co.jp/articles/2005/03/28/db3/index.html>
- 「コミュニティ活動がスキルを伸ばす」 --- オープンソースカンファレンス2005より
 - <http://itpro.nikkeibp.co.jp/free/ITPro/NEWS/20050327/158035/>
- OpenOffice, Mozilla, Apache などに加え、当時からMSが、参加
- Java系トピックも多い。SeasarやJBoss アーキチャーの本格的セッションも登場

2005年 パネルディスカッション

- IPA未踏ソフトウェア創造事業に採択され、平林氏はIPAの「天才プログラマー/スーパークリエイター」に認定された。「勤務先の富士通からWideStudioが業務として認められるようになった」
- びぎねっとの宮原氏は「コミュニティに参加すると、**会社内だけでは決して得られないスキルが得られる**」と語る。
- 栗原氏は「日本のオープンソース・コミュニティは**マーケティングや営業面が弱い**」と指摘、そういった人材がコミュニティにとって重要であると指摘した。

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/free/ITPro/NEWS/20050327/158035/>

2005年 札幌、沖縄

■ 啓蒙的セッション

- 「オープンソース開発の喜び」 / まつもとゆきひろ(株式会社ネットワーク応用通信研究所 特別研究員、Ruby開発者)
- 「オープンソースソフトウェアがユーザーに届くまでの仕組み」 / 姉崎章博(日本OSS推進フォーラム、NEC)
- 「OSS技術者の育成とスキルセット」 / 大谷真(北海道大学), 比屋根一雄(三菱総合研究所)
- 「あらためて知っておきたい。オープンソースとは何なのか」 可知 豊
- 「Linuxディストリビューションの選び方」 平 初
- 「トラブル対策と運用の秘訣 ～あるH/Wベンダー担当者の苦労話～」 赤井 誠 (日本ヒューレット・パッカー株式会社 Linux/HPC 推進部)

2005年のビジネス状況

Linux 市場のビジネス成長続く

矢野経済研究所

国内のサーバー向けLinuxディストリ
ビューション市場調査

出荷本数は対前年比80.8%増の10万9400
本, 出荷金額は対前年比79.6%増の59億
1000万円

(矢野経済研究所推定, 「Linuxディストリビューションの市場動向に関する調査結果 2006」

<http://thinkit.co.jp/free/trend/4/4/1.html>

2005年 まとめ

- Linux OSビジネス堅調
- 今も続く課題
 - オープンソースとは？
 - コミュニティへの参加と企業の認識
 - オープンソースのサポート
- 盛り上がりだけから、問題解決へのフェーズ

2006年 全国拡大への布石と.DB

- 【年間実績】 4都市・6会場・約2,900名
- 新潟での開催実施
 - 地方での講師へのもてなしの定番化
- データベースに特化したカンファレンス
 - 各レイヤーによって、拡大がみられ、OSC だけではカバーしきれないほどの活発化
- スポンサー
 - 日本IBM、NTTデータ、NRI、ターボリナックス、ミラクルリナックス、ノベル、アシアル株式会社、SRA OSS、株式会社サードウェア、株式会社スペースタグ、ユニアデックスなど

仮想化、Ruby on Rails の登場

- Ruby on Rails の初心者向けセッション登場
- 春に初めて登場した仮想化セッションは、秋には、Xenを中心にした各種のセッションへ拡大

2006年まとめ

- ビジネスできるか、できないかというよりも、**何に使うか、どうやって使うかへ**
- **今話題のクラウドへとつながる技術の動き**が見えてくる
- Hinemos のようなデータセンター、クラウドの運用管理のセッションが秋に登場。
- 今までつづく、CMSやSNS ソフトウェアのセッションが豊富に

2007年 急激な参加者の増加

- 【年間実績】 7都市・8会場・約4,800名
- 関西(京都)、福岡の参加
- プレゼントに ProLiant ML110 登場
- 仮想化の初心者向けからサイジングまでの幅広いセッションが多数開催
- ソーシャルという用語の登場
- しかし、まだWeb2.0 という用語も

2007年まとめ

- 東京から、オープンソースの全国での注目の増加
- 仮想化ビジネスが花開くまさに、きっかけとなる年

2008年 さらに拡大しほぼ毎月開催へ

- 【年間実績】 9都市・11会場・約6,000名
- 大分、名古屋(三大都市圏のすべて参加)、島根の参加
- スポンサー
 - Yahoo! や楽天などのネットサービス企業
- 地方自治体での取り組み発表
- 学生参加への取り組み
 - こういう人なら、ぜひ採用したい! No.1 Linuxベンダーの人事採用担当者が語るIT企業が求める人材とは?

2008年 まとめ

- 仮想化ブーム続く
- 参加者の一巡か？ 「もう一度学ぶ」というのな入門セッションも復活
- クラウドの息吹
 - Hadoopセッションの登場にクラウドの息吹
 - ネットサービス企業の事例紹介
- Android
- 勉強会セッション登場

2009年 全国定着

- 【年間実績】 11都市・12会場・約6,400名
- 仙台、高知(四国上陸)
- セッションとしても、仮想化、運用、LL、DB、CMS, SNS の定番化
- Java セッションが減ってきている
- 自治体の取り組み紹介が、地方開催の定番化へ

2009年 まとめ

- 日本全国大都市圏のカバーとオープンソースへの取り組みが盛んな地方都市
- 技術トピックだけでなく、人材育成、世界との関係など、「個人」と「グローバル化」に対する議論が見えてきている
- モバイルデバイス(Android, Mobilin/MeeGo)などが人気となり、まさに2010年スマートフォン時代の先駆け

2010年 50回開催へ向けて

- 年間テーマ「オープンソースと政府・自治体」
 - ITコストの削減は特に自治体においても急務の課題であり、OSSを活用してITコスト削減に取り組み始めた事例も出てきております。しかし、ライセンスや技術サポート、技術者教育、情報やソフトウェアの共有方法、オープンな標準への対応など、課題も多いのが実状です。

全体のまとめ

- 初期: Linuxはビジネスになりかけているけど、まだ技術者は生活できるのかという不安が垣間見られる
- 全体: 新しい技術動向や社会の動きがトピックに入ってくる
- 参加者の一巡により、昔のトピックでも今実施すると人気がある → 必要

今後に向けての洞察

- オープンソース/クラウド時代は、「個人」の確立と「グローバル化」への対応がキーとなる。
- 例えば、勉強会活動やグローバルコミュニティとの関係セッション増加に見て取れる
- 今後のオープンソースカンファレンスは、テクノロジーだけでなく、特にキャリアのようなOSSの周辺にまつわるトピックの支援活動が大切となり、結果として、日本のIT産業を支えていくことになる

最後に

- 企業は、規模、創業年数、経営状況、市場状況、経営モデルによって、必要とされる人材は、異なる
- 今までは、企業がそれに合わせた人材育成を実施してきたが、それができなくなってきた時代
- 学生だけではなく、社会人も、そのような状況に応じて、成長し、自分が必要とされるようなキャリアデザインをしていく必要があるだろう
- それが、個人の確立となるのでは。